

ハグしちゃおう！ 2021

令和3年度 園長だより 10号

第58回室蘭幼稚園の発表会が終了してしまいました！無事に終えられた事は本当に安堵しかないのですが、発表会という大きな行事が子ども達の日常の中でも簡単に、達成できたことが誇らしくもあり、行事が終わっていく寂しさも日増しに痛感しています。

運動会で成長を感じていたあの頃とはまた別の成長で、発表会は圧倒的に他者との関わりと空間認知の部分での成長が大きかったように感じます。隣のお友達は誰か？どの辺りに立つのか？いつ、登場するのか？運動会とは全く違う課題の中で取り組みました。

マスクを外した子ども達の口元が見られた事は、当たり前だったコロナ流行前を思い出します。呼吸もしやすいですし、相手の表情もわかりやすい。この2年弱、目だけしか見えない環境の中で、子ども達は普通に過ごしていました。顔の表情で安心したり、嫌な気持ちを察したり、感情を行きかかわす事の大切さを改めて実感しました！

年長さんの着替えを手伝っていた時に、私の目の前でくしゃみをした子が「あつ、くしゃみしちゃった！」と慌てて口元を抑える仕草をしました。コロナに関係なくくしゃみをする時は手を口元に当てるのは当たり前ではありますが、何か悪い事でもしたかのような言葉に「大丈夫だよ！先生はマスクしていたから！」と返しましたが、こんな小さな子ども達がこんなにコロナを理解していること、こんなに人に気を使っていること・凄いな！と感じました。同時に、やっぱり、もっとのびのびと幼稚園生活を送らせてあげたいな・とも感じています。発表会の裏側の子ども達の成長も本当に素晴らしかったです！

発表会の表現として遊戯→舞踊劇→言語劇と少しずつ学年が上がる毎に課題が高度になっていくのですが、今年も期間が短いという事もありました。当初から難しくもないもの、混乱が少ないもので選んでいました。おかげで？楽しい！またやりたい！という声が多く聞こえる発表会だったのではないかと感じています。発表会がどんなに高度でも、子ども達がもうやりたくないなどのマイナスの感情が残るものなら行事としての意義は変わってしまいます。成功体験こそ！行事で成長！の基盤です。苦手を感じている子は、失敗体験をもっとして良いんだという事を伝えると同時に、自信がつくようなアプローチをこれからも考えていきたいと思っています！

楽器演奏は実は結構個人差があります。普段、音楽が生活にある子とない子では耳の感覚がやっぱり違います。歌う事は日常の中で沢山経験できますが、楽器演奏は機会がないといつでもどこでも、というわけにはいきません。ましてやハンドベルがお家にあるなんて事はごく稀です。年少さんのハンドベルは順番が来たら鳴らす！年長さんは音階を理解して鳴らす！この違いは経験の違いです。日々のドレミ体操や関係のないような生活の中にもリズムを感じる機会が沢山あります。音楽はそれぞれの好き嫌いもありますが、個人的には生活の中にあるといいな～と思っています。今回、ピアノを担当した功太郎は3歳からピアノを習っていましたが、好きではなかった・小学生になると毎週腹痛になって保健室に行っていて、偽の薬を置かせていただいていたみたいです(笑)。4年生からドラムを習い始め、一旦ピアノとは離れるわけですがドラムの先生の一言で中1でポップスピアノを習い、今もほぼ毎

日基礎練習をしています。そして、あんなに、危うかったきりん組の伴奏を何度も楽しそうにリピートして見えています。私なら・・振り返りたくないです(笑)。決してピアノが上手なわけではありませんが、5クラスのピアノを通して感じたい事も多いらしく、今後にぜひ、生かして欲しいと願っています。同様に先生方も、今回の発表会を通して学んだ事は果てしなく多かったと思います。一人一人と向き合う事の大変さと面白さを発表会という行事で学ぶのでした。そして、私も！もちろん学びました！

先月末行われた、幼稚園協会西胆振支部の研究大会での「田中康雄先生」の講演会は、今までも何度も聴いていますが、何度も聴いても学び！学び！です。子どもの躰(つまづき)に、気づきながら関係機関を利用しないのもったいない！一方で利用する時の行政の方法がネック！応援の仕方を知りたいだけに・・どうして？(市の「障害福祉課」に行つて、「障害〇〇手帳」の交付が必要なのか・・本当に謎・・。なので室蘭市に問い合わせても「国の予算がついている事業だから・・」という回答。確かにね！そうだけど・・。発達障害という言葉もどうか？)

実は発達障害の定義も近年、細やかに改定されています。4分割だった発達障害も8分割されていて、私なんて2つ位当てはまります！ただ、まあまあうまくやっつけている・・そんな感じです。子どもの発達に気になるのは1歳半・3歳・幼稚園等の集団生活・学校など様々なチェック機関がチェックするからです。山の中に一生誰とも関わらずに生きていけたら、そんなに発達障害？なんて気にする必要はないかもしれませんが、人も一人では生きていけなくはないけど、「支えあっている！」という事は伝えていきたい事の1つです。だから、関わりが苦手な子にこんな風にしてみたいいいかも？とか、応援してあげる！こんな理解がもっと増えるといいのに・・と願っています。そして、困った時は「もし我が子だったら・・」という私なりのとらえ方でサポート出来たらいいなと思っています。そして応援の仕方も沢山あっていいように感じています。脳にはタイプがあるそうです！それは本当に一人一人様々ですから、応援の仕方が一杯あるという事でもんね！医療機関である田中先生のお考えや知識、経験はたった1日の研修でしたが、学び深い時間になりました！機会があれば、ぜひ皆様にも聴いて頂きたい子どもへの関わり方でした！

私は立場上、先生方の研修レポートを覗くことが出来るのですが、どの幼稚園の先生方も実にしっかりと研修を受けています。また、午後の研修は免許状更新講習の先生方みの研修だったので、続きが聴きたかったという、西胆振の幼稚園の先生方の熱意で異例の追加研修が決定するという事態になりました。研修を企画した側の私たち実行委員はとても感激しています。研修終わりに実行委員に対するねぎらいのコメントを書いて下さった先生方も6割強いました。幼稚園の先生方にとって、本当に必要なのは研修で学んだ事だけではなく、こういった気遣い・・これこそが資質として求められるものではないかと思っています！さあ！室幼の先生方は書いたのか？(名前はあえて見ていません！(笑))

今ならたっぷりハグしちゃおう！

室蘭幼稚園 園長 小倉真弓美